

3月3日

戦旗社
 東京区3の3
 都文京
 2丁目
 番地
 加藤ビル

戦旗

号外

大取支局
 福島区サギス上335
 工部局ビル(458)0235
 東京都文京区下鴨宮崎町1
 123の22 (70)-0025

実力斗争の意義を確認し、3・7
 集会を、3・8王子野戦、3・10
 三里塚斗争への決起集会とせよ、
 70年安保紛争の隊列を固めよう、

③・7集会の意義

①昨年、この戦旗斗争を爆発点として開始された反戦斗争は、羽日斗争を経てベトナム解放戦線の斗争を軸とする国際的の反戦斗争と結合しつつ、佐世保から王子野戦、三里塚とホリハイとした大衆的・高揚を示している。労働運動の右傾化が叫ばれる中でこのような階級斗争の高揚は、明らかに10/8以後の全労連、反戦青年委員会による、打撃と実力斗争が切り開いたものである。

50年代後半より進行した資本による職場支配、職場斗争の圧殺と政治斗争の遠放は、日本理社民の戦力力の基礎を奪い、安保以後の強化された治安攻撃は多岐にわたる。

②昨年の大衆斗争の高揚を促進する街頭デモを討伐してきたのである。さらに行政の肥大化に伴う初打撃村内部の議会の比重低下とあり、また、議会・労組組合を軸とする50年代階級斗争の展開は著しくその力を失いつつある。

羽田から佐世保にいたる実力斗争が、かくも広範囲な大衆斗争の高揚をもたらしたものは、これが今日の階級情勢に究められた有効な斗争形態だからである。運動は明らかに復讐的転換を遂げつつある。我々は闘争として実力斗争を、その意義を確認し、それを支える反戦青年委員会の量的拡大を計

らねばならぬ。

③70年安保斗争は、佐世保でその萌芽をみだ。社共ブロックに力める反戦青年委員、実力斗争を中軸とする労組の労働斗争の統一戦線に、よって斗われるのである。

既に、全人民の政治斗争への参加が始まっている。

80年にいたる斗争の環は海外侵略の抛棄、国内基地撤去斗争である。三里塚斗争はうたがいのもなくこの巨大な斗争の出現であり、この斗争の勝利は沖縄戦後政治への展開を大きく切り開くだろう。

3・7集会要項

3月7日(木)午後六時
 市立労働館

映画 佐世保斗争の記録

報告 佐世保斗争と70年安保

挨拶 三里塚空港設置反対同盟

中央大学自治会 議長 久保井祐三

関西地区反戦連絡会 議長 若井祐一郎

全学連 京都府学生連委員長 田日葉樹

三里塚空港対同盟北原事務局長来たる

